

3/2-8#37イエスの証しのための神の忠信な証人
I.キリストは神の忠信な証人、神の証した表現です。彼が神を表現することは、彼が証しすることです。
啓1:5 また忠信な証人、死人の中から最初に生まれた方、地上の諸王の支配者であるイエス・キリストからあるように。私たちが愛して、彼の血によって私たちが罪から解放し、20 ...七つの星と、七つの金の燭台の奥義はこうである。七つの星は七つの召会の使者たちであり、七つの燭台は七つの召会である。**A**キリストは神の証人であり、神の証した表現です。召会はキリストの証した表現です。それゆえ、召会はキリストにある神の証した表現との複製です。**B**啓示録は、啓示されたキリストと証しする召会を私たちに提示しています。この召会は、イエスの証しです。キリストは神の証しであり、召会はイエスの証し、三一の神の団体の表現である拡大されたキリストです。**II.イエスの証しは、七つの金の燭台です。これらの燭台は、性質において金(神聖なもの)であり、暗やみの中で輝いており、互いに同一です。出25:31** また、あなたは純金の燭台を作らなければならない。その燭台は、その台と幹と共に、打ち物作りで作られなければならない。その盃、萼、つぼみは、燭台と一体でなければならない。36 それらの萼と枝は燭台と一体になり、その全体は一つの純金の打ち物作りでなければならない。**A**金の燭台は、三一の神を象徴しています。すなわち、実質としての御父は、御子において具体化されています。具体化としての御子は、その霊を通して表現されています。その霊は諸召会として完全に実際化され、表現されています。諸召会はイエスの証しです。**B**私たちは金の燭台を、イエスの証しとして、すなわち、イエスの団体の表現として経験するために、絶えず主イエスの御名を呼び求めることによって、イエスの霊で満たされ、イエスの焼き印を帯び、兄弟たちとなり、イエスにある患難と王国と忍耐とに共にあずかっている者にならなければなりません。**C**金を打ちたたいて台を形成することは、信者がキリストの苦難にあずかることを表徴します。私たちの環境の中で起こるあらゆる事は、打ちたたかれた燭台を生み出すためです。**1**もし私たちが神を知ろうと固く決意して、その霊の内なる働きと外側の環境に服するなら、あらゆる環境は、私たちが彼を知る機会となります。**2**もし人が一生のうち神を知らなければ、彼は一生を無駄にしたこととなります。どうか主が私たちに、私たちの環境の中の彼の取り扱いを受け入れる願いを与えてくださり、私たちがさらに彼を知ることができるようにしてください。 **3**物事の最

も重要な点は、さまざまな困難や試練のただ中で、大いなる光としての主に出会うかどうかということです。苦難は、私たちが理解できなかった事を私たちに理解させることができます。**D**金の燭台の輝きによって人々は、燭台の間を歩く人の子としての、栄光のキリストのビジョンを見ます。諸召会の間にいる主が、永遠にわたって生きている方であることを知ることによって、私たちは絶えず霊の中で彼の臨在を確信することができます。彼はいつも生きていて、私たちのためにとりなしてください。彼は今や私たちのために、神の御顔の前に現れてください。彼は決して間違いを犯すことがなく、また私たちを見捨てません。**E**七つの金の燭台の七つのともし火の輝き、主イエスが火の炎のような七つの目をもって燭台の間を歩くこと、彼の足が輝く青銅のようであること、彼の御顔の輝きが太陽のようであることが示しているのは、私たちの日常生活と召会生活の中で、私たちが日々、ますます主の輝きを必要としているということであり、それはますます主に牧養していただくためです。すなわち、ますます救い、回復し、復興し、神化していただくためです。啓4:5七つの火のともし火が、御座の前で燃えていた。この七つの火のともし火は、神の七つの霊である。5:6 私はまた、御座と四つの生き物の間、長老たちの間に、ほふられたばかりのような小羊が立っているのを見た。それには七つの角と七つの目があった。それは全地に遣わされた神の七つの霊である。2コリント4:6 なぜなら、「暗やみから光が照りいでよ」と言われた神は、私たちの心の中を照らして、イエス・キリストの御顔にある神の栄光の知識を、輝かせてくださったからです。エペソ5:14 こういうわけで、彼は言われます、「眠っている者よ、目を覚ませ。そして死人の中から立ち上がれ。そうすれば、キリストがあなたを照らされる」。**F**照らしは、神のあわれみと共にあります。いつであれ神がやって来て、彼のあわれみを与えてくださるとき、彼の御顔の光は私たちの光であり、彼の現れは私たちのビジョンであり、彼の臨在は私たちの獲得です。**1**私たちは照らされるために、主の照らしを求め、主の照らしを受け入れ、固く決意して単一になって、すべての願いをもって主だけを追い求めなければなりません。**2**私たちは照らされるために、自分自身を主に対して開き、私たちの心を主に向け、何も保留したり、とどめたりせず、自分自身を主の御前に置かなければなりません。自分自身を主に対して閉ざす人は、他の人を裁き批判する専門家です。**3**私たちは照らされるために、自分自身を停止しなければなりません。これが意味す

ることは、私たちの見解、私たちの物事の見方、私たちの感覚、私たちの考え、私たちの意見を停止することです。完全に停止している人が主の御前にやって来るとき、彼は非常に単一になり単純になって、主の言葉を受け入れることができます。

4私たちは照らされるために、私たちの内側で語るその霊の光と争ってはなりませんし、外側で語る霊の奉仕者たちと争ってはなりません。**5**私たちは照らされるために、絶えず光の中で生きなければなりません。

III. イエスの証しは、宮の中で神に仕えている大群衆、すなわち、神の贖われた人たち全体です。彼らは天へと携え上げられて、神の顧みと小羊の牧養を享受し、天上にある、またキリストの中にある霊のあらゆる祝福を得ます。それは、今日私たちが享受することのできるものです！啓7:9 見ていると、見よ、あらゆる国民と、すべての部族、民族、言語の中から、だれも数えることのできない大群衆が、白い衣服をまとい、しゅろの枝を手にして、御座と小羊の前に立っていた。**15** だから、彼らは神の御座の前において、彼の宮で昼も夜も彼に仕えている。御座に座す方は、彼らの上に幕屋を張られる。**16** 彼らはもはや飢えることはない。もはや渴くこともない。太陽もいかなる熱も彼らを打つことはない。**17** 御座の中央にいる小羊が彼らを牧養し、命の水の泉に導いてくださり、また神が彼らの目から、涙をことごとくぬぐい取ってくださるからである。

A大群衆は、小羊の血をもって、あらゆる国民、部族、民族、言語から買い取られた人たちから成っており、召会の構成要素となっています。**B**「これらは大きな患難から出て来た人たちであって、彼らの衣服を小羊の血で洗い、白くしたのである」。(啓7:14)**1**14 節の大きな患難は、すべての時代を通して、神の贖われた民が経験した患難、苦難、迫害、苦悩を指しています。**2**小羊の血は、神の御前で、私たちに対する悪魔の訴えすべてに答え、彼に対する勝利を私たちに与えます。開かれた血の泉としての贖うキリストが、私たちのすべての罪と汚れを洗ったゆえに、私たちはその血に身を浸して、私たちのすべての罪の汚れを消すことができます。また、「立ち上がって、神ご自身の光の中を歩き、この世と罪を超越し、心は新しくされ、衣は白くされ、内側でキリストが御座に着きます」。

3私たちの衣服を洗うことは、小羊の血の洗いを通して、私たちの行為を清く保つことです。これは私たちに、命の木を享受する権利を与え、また神の永遠の祝福の領域である命の都の中へと入らせます。**C**大群衆は、しゅろの枝を手にして、御座と小羊の前に立っています。**1**しゅろの枝は、主のた

めに受けた患難に対する私たちの勝利を表徴します。しゅろの木はまた、水が注がれることを通して得られた満足のしるしでもあります。**2**神の宮としての三一の神の中で、私たちは昼も夜も彼に仕え、彼を永遠の仮庵の祭りとして享受し、しゅろの木のように命において栄えます。**3**今日の私たちの時間の中での奉仕は、永遠の中の奉仕のための準備です。時間の中での神の唯一の目標は、ご自身を日々、私たちの中へと分与することです。神が私たちの中へと入って来て、私たちから出て来るとき、それが奉仕です。**D**私たちはもはや飢えることがなく、渴くこともありません：**1**飢え渴くとは、まだ満たされていない望みがあるということです。キリストは、彼の中へと信じるすべての者が満足して、満足させる命としての彼を受けることを約束しています。

2私たちの霊の中で、霊なる神と接触することは、生ける水を飲むことです。そして、生ける水を飲むことは、神に対して真実な礼拝をささげることです。**E**打つ太陽と焦げつくような熱さが、私たちを襲うことはありません。**1**御座に座している小羊・神は、私たちの上に幕屋を張り、彼ご自身をもって私たちに覆います。**2**神のおおいの下にある命が一つあります。それは、神の中に隠されている命です。**3**エホバとしての、また人としてのキリストは、王であって、神の民を供給し、顧み、覆います。彼は、支配する王であり、また人でもあって、風を避ける避け所や、暴風を避けるおおいのようであり、乾いた所にある水の流れのようであり、荒廃した地にある大きな岩の影のようです。**F**御座の中央にいる小羊は、私たちに牧養し、私たちに命の水の泉に導きます：**1**牧養することは、養うことを含んでいます。キリストの牧養の下で、「私には欠けるものがありません」。**2**私たちは決して自分自身を改善することはできません。私たちは、いつも私たちに養ってくださる牧者を必要とします。彼は、神の小羊としての彼の経験をもって小羊たちを養います。この神の小羊は、神の御座に座しており、神の家の中におり、また神の家のためです。**G**神は私たちの目から、涙をすべてぬぐい去ってくださいます。**1**涙は、この時代には避けることのできないものです。しかし、私たちの涙は、神の皮袋の中に入れられ、彼の書に記されます。**2**小羊が私たちに命の水を供給して、私たちに満足させてくださるので、涙の水はぬぐい去られます。**3**神に感謝します。悲しみの日と悲しい事柄は、長くは続きません。この世は過ぎ去りつつありますが、私たちは祝福されており、流れ出る三一の神から飲み、ついに私たちは、永遠の命の総合計、すなわち、新エルサレムとなります。